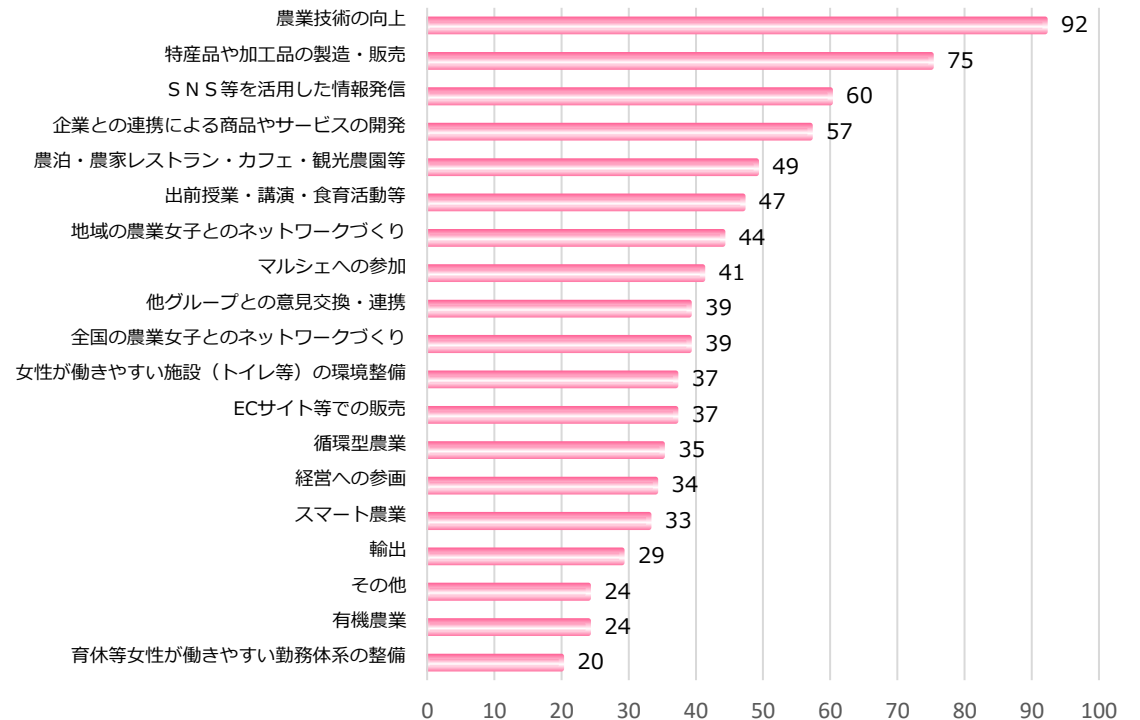
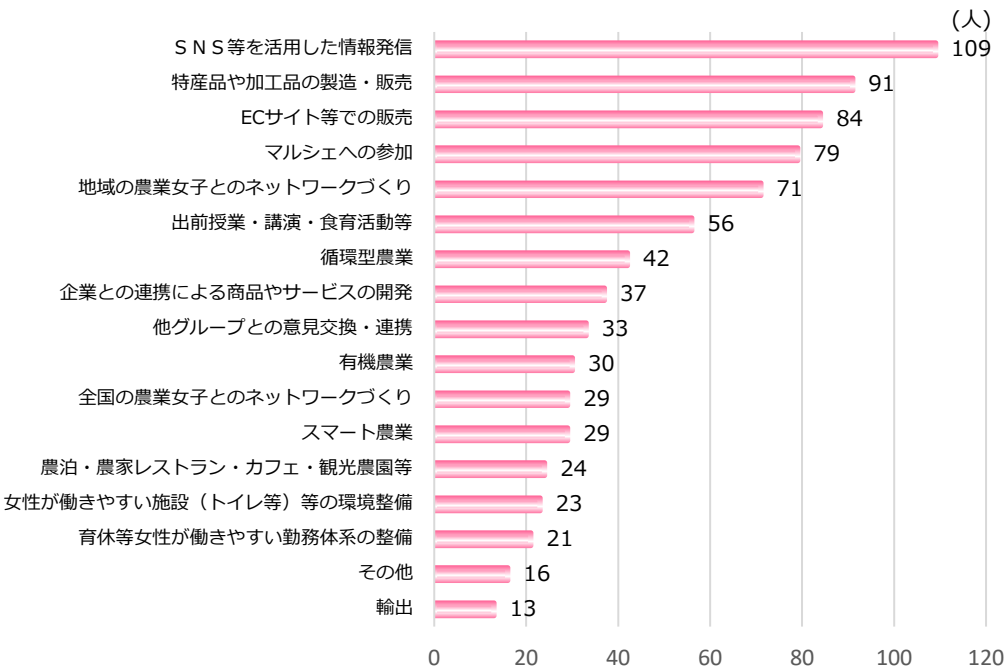


第11回推進会議アンケート 最終報告 (11月11日時点)

【現在取り組んでいること（複数選択可）】

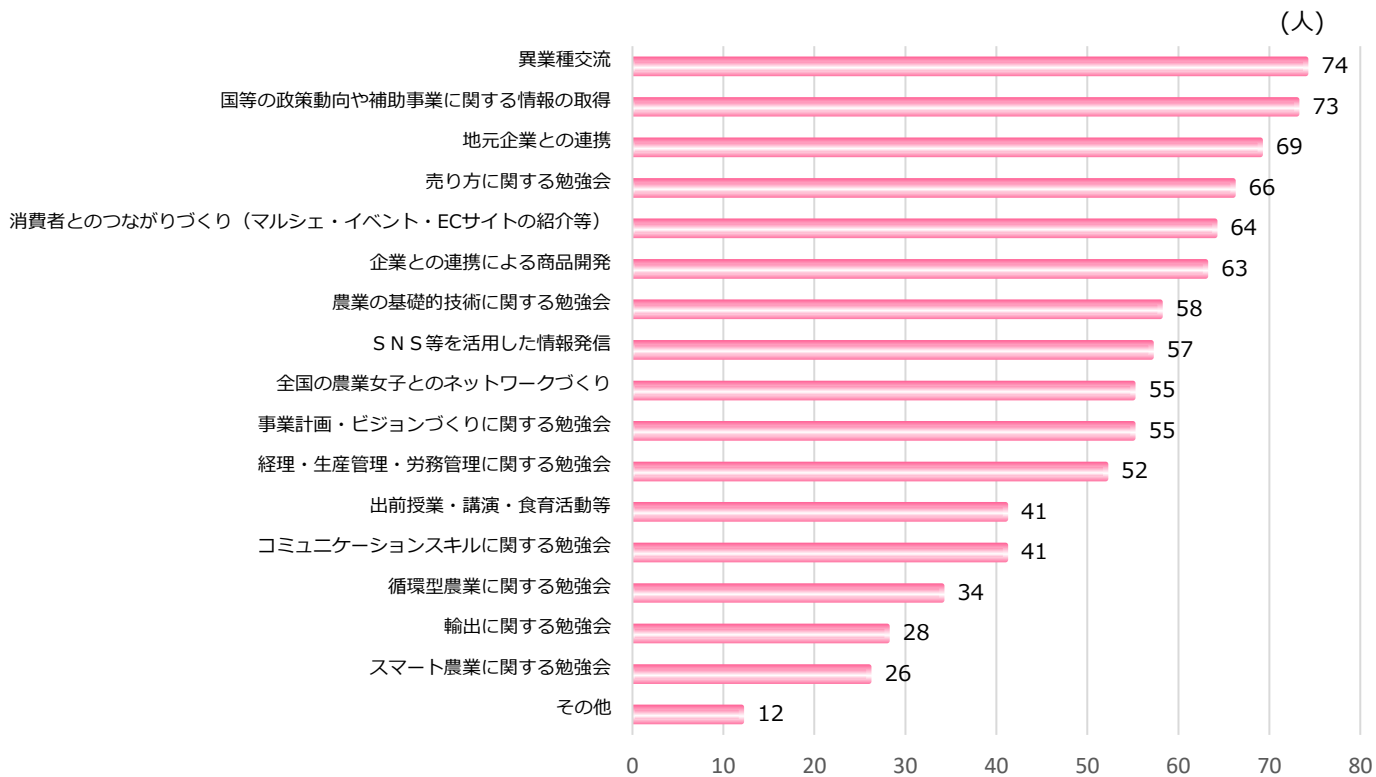
【将来（おおむね3年以内）に取り組みたいこと（複数選択可）】

(人)



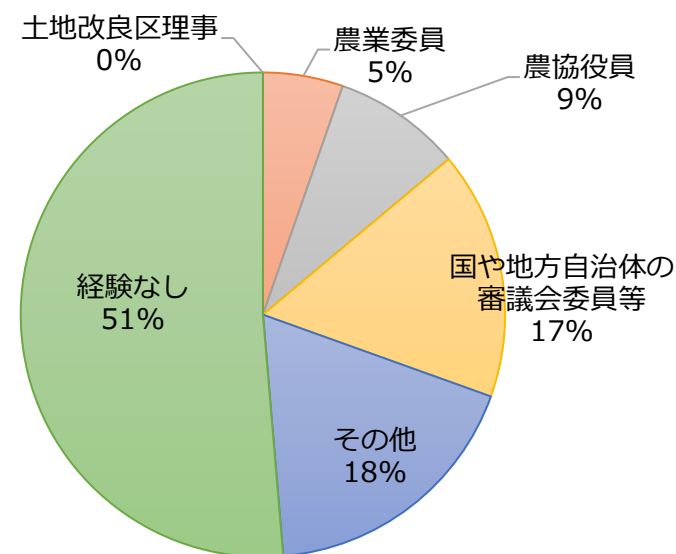
- ◆ 現在の取組としては、SNS等を活用した情報発信や特産品や加工品の製造販売、ECサイト・マルシェでの販売が上位を占める。
- ◆ 将来取り組みたいこととしては、農業技術の向上、特産品や加工品の製造販売、SNS等を活用した情報発信、農泊・農家レストラン・カフェ・観光農園等が上位を占める。

【農業女子プロジェクトに期待すること（複数回答可）】



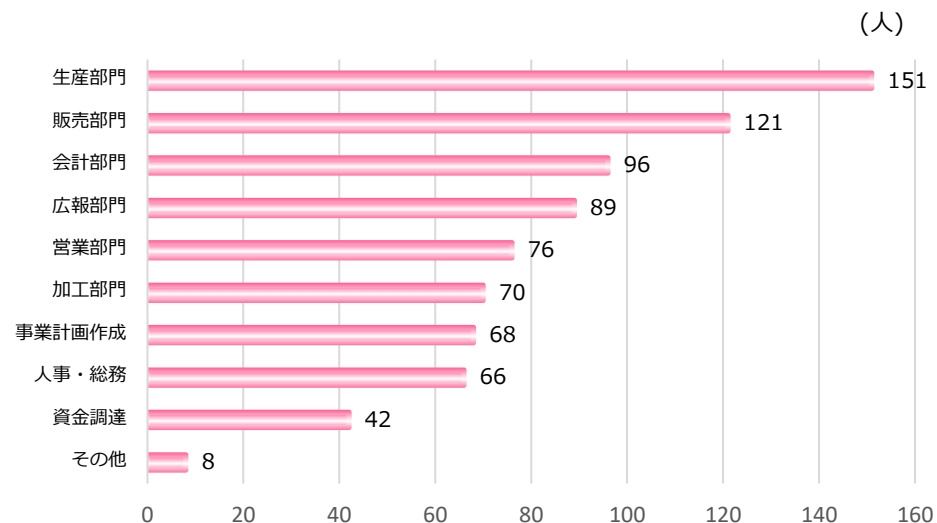
【参考資料】

外部役員等の経験



- ◆ プロジェクトに期待することとしては、「異業種交流」、「国の政策動向等の情報取得」、「企業との連携」等、個人では取り組みにくい内容へのサポートを期待する声が多い。
- ◆ 「売り方」「農業の基礎的技術」「事業計画づくり」「管理」等の勉強会に対するニーズも高い。

【関わっている業務】



資料：「第11回推進会議アンケート」を基に作成（回答数161件 11月11日時点）

自由記述の中から、特徴的なものや今後の活動に参考になりそうなコメントを抜粋。

1. 生產品目や現在取り組んでいることについてのこだわりのポイントやセールスポイント

- 中学生への出前授業を行ったり、学生からの取材対応もできる限り受けようとしています。
- 野菜ソムリエプロの資格をいかし、食べ方提案をすることで消費拡大を狙う。
- 地域の保小中高大での食育・野菜栽培・農業体験・加工品開発、国際交流留学生の農業体験・農泊、地域のフードロス活動・JGAP取得経験あり、エコファーマー、減農薬栽培、都内の農家だからこそ庭先の直売所の強化や、付加価値をつけた農産物のブランド化を行っています。有名ホテル、百貨店へ出荷しています。
- 剪定枝や葉っぱをチップパーで刻み、菌を入れて発酵させた自家追肥を使用した野菜栽培。
- 野菜を収穫後・季節ごとの花の種をまきはちみつを採蜜、その後野菜づくりの肥料として、花を使った有機肥料でのSDG s の継続可能な未来的完全循環型農業が行っている。
- 農業のことを他業者の方に知ってもらうための女性起業家との交流

★キーワード：食育活動（保小中高大など）、野菜ソムリエ、JGAP取得、エコファーマー、有機・減農薬・特別栽培（持続可能な農業）、加工

2. 今後取り組みたいことの理由について

- 農業技術の向上は一生の課題です。時代の流れとともにパラダイムシフトしながら昔からの技術を大事にしてよいものを作ることを心掛けている。
- 原価の高騰を、循環型農業やスマート農業で改善したい。1経営体では出来ることが限られるので、企業コラボや輸出事業を継続発展したい。
- スマート農業による省力化。労働力の確保が難しいため。
- 日本の伝統米作りを商品を通して世界に伝えていきたいと考えています。海外販路・海外企業とのコラボレーションができるとさらに認知が広がる。
- 女性スタッフが多いので働きやすい環境を作り、幅広い年齢の女性に活躍して欲しい
- 温暖化により野菜の破棄が多くなったので、少しでも加工して無駄な野菜を無くしたい。
- 私のような素人が明日から稼げる誰でも参入できる農業の仕組みづくりを形にしたい。

★キーワード：経営の安定・強化、技術向上、販路拡大、働きやすい環境整備、食品ロス、加工、地域活性化

3. その他

- 雇用就農者同士の、コミュニケーションや勉強の場が必要。
- 次世代への農業の繋げ方勉強会
- 人材育成のスキルを高める勉強会
- 経営数値の見方、経営分析ができる経営者の育成が必要。現実の経営実態をきっちり理解しなければ持続的な農業経営につながらない。
- プレゼンをして、良いと思った投資家や企業が手を挙げて、何かしらバックアップする取組があれば嬉しいです。

3. 第10期活動に向けて

- a. 9年間の振り返りと今後の方向性
- b. 第10期の活動方針



農業女子プロジェクトの目的

1. 社会、農業界での女性農業者の存在感を高める

2. 女性農業者自らの意識の改革、経営力の発展

3. 若い女性の職業の選択肢に「農業」を加える

農業女子PJ 未来につなぐ会議

今後のプロジェクトのあり方を事務局と一緒に考えるメンバーを9月のメルマガで募集。

応募のあった12名のメンバーと、2回の会議を開催し、PJの今後の方針について意見交換を実施。

メンバー

佐藤 ゆきえ (福島)	景井 愛実 (福島)
石毛 理恵 (千葉)	高橋 七海 (埼玉)
石井 真帆美 (群馬)	片山 京子 (山梨)
藤井 和代 (福井)	中垣 野歩 (岐阜)
西岡 さち子 (徳島)	藤原 美里 (熊本)
大吉 枝美 (鹿児島)	内山 佳奈 (ラフリー/北海道)

※第1回会議アドバイザー

(公社) 日本農業法人協会 人材強化委員会委員長 實川 勝之氏

■第1回会議 (10月12日 オンライン開催)

- 1 参加メンバー自己紹介 (1分程度)
- 2 農業女子プロジェクトの今後の方向性について
- 3 意見交換
 - ① 農業女子プロジェクトの意義について
 - ② NEXTラボの設置について
 - ③ NEXTラボの種類について

■第2回会議 (11月8日 オンライン開催)

- 1 第1回会議の振り返り
- 2 今後の農業女子プロジェクトの方向性について意見交換
 - ① 企業とのかかわり方について
 - ② 未来の農業女子育成について
 - ③ 今後の農業女子プロジェクトのあり方について (目的、男性の参加、農業女子の名称)

農業女子PJ未来につなぐ会議メンバー

 内山 佳奈(ラフリー) ◆うちやま農園 ◆北海道 ◆アスパラガス ◆2013年入会	 佐藤 ゆきえ ◆南まるせい果樹園 ◆福島県 ◆果樹栽培(さくらんぼ、もも、なし、ブドウ、リンゴ、あんぼ)など ◆2014年入会	 景井 愛実 ◆景井 ◆福島県 ◆もも、リンゴ、米など ◆2014年入会	 石毛 理恵 ◆千葉県 ◆露地野菜(大根、人参、とうもろこし) ◆2019年入会	 高橋 七海 ◆株式会社Agrinos ◆埼玉県 ◆ゆず、ライム、カボチャ、じゃばら、レモン、キヤベツ、ニンジン、タマネギ、ジャガイモ、小松菜 ◆2022年入会	 石井 真帆美 ◆群馬県 ◆トマト、夏秋なす、おおなす、レタス、アスパラガス、キヤベツ、ブロッコリー、ロマネスコ ◆2022年入会	 片山 京子 ◆山梨県 ◆きゅうり、スイートコーン、ずもも、ブドウ ◆2015年入会
 藤井 和代 ◆カネハム八農場の兼営カフェ ◆福井県 ◆農産加工品製造・カフェ経営 ◆2014年入会	 中垣 野歩 ◆なかがき農園 ◆岐阜県 ◆トマト ◆2018年入会	 西岡 さち子 ◆有限会社西岡産業 ◆徳島県 ◆いちご ◆2014年入会	 藤原 美里 ◆熊本県 ◆アスパラガス、いちご、里芋、そば ◆2019年入会	 大吉 枝美 ◆鹿児島県 ◆鹿児島県 ◆露地野菜、主にキヤベツ、枝豆、ブチウエルなど ◆2015年入会	 實川 勝之 ◆株式会社アグリリス ◆千葉県 ◆梨、米、施設野菜、露地野菜(古代米) ◆(公社)日本農業法人協会 人材強化委員会(女性活躍推進)委員長として参加を依頼	



<目的 その1> 社会・農業界での女性農業者の存在感を高める

これまでの成果・意義	今後への期待
<ul style="list-style-type: none"> ● PJメンバーが拡大（37人→920人）し、全国レベルでの女子同士のネットワークが構築された。 ● 地域において、女性を1人の農業者として扱おうとする雰囲気醸成。様々な活動がやりやすくなった。 ● 農業女子とPJ参画企業との商品開発等により、女性農業者にとって使いやすい商品ができた。 ● 農業女子と企業がコラボレーションすることによって、外部からの見られ方が変化し、取材を受ける機会が増え、ネットワークも広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業ビギナーの人、先進的な人など、立場によってニーズはさまざま。その人のライフステージによってもできることが変わってくるので、多様な立場の人を後押しする活動であってほしい。 ● 農業女子と企業がコラボレーションすることによって、農業女子側に成果があつて次につながっていくような企画を期待したい。 ● 全国のPJメンバーが生産する農産物を使用した新商品の開発に取り組めたらよいのではないか。 ● PJメンバーが増えたため、同一都道府県内でもメンバー同士を知らない・つながっていない。PJ内の同じ地域や作物などで、出会いのきっかけを作ってほしい。 ● 4Hクラブでも新しい考え方で経営している人が多いので、一緒に活動するよう呼びかけてはどうか。

※農業女子PJ未来につなぐ会議における農業女子メンバーからのご意見等をもとに作成。

<目的 その2> 女性農業者自らの意識の改革、経営力の発展

これまでの成果・意義	今後への期待
<ul style="list-style-type: none"> ● 参画企業等の協力の下、様々な商品開発や販売促進等の取組がセミナーが実施され、販売や情報発信等のノウハウの獲得につながった。 ● 全国で地域版の農業女子グループが誕生。さらに、地域を超えた広域の農業女子グループも設立され、精力的な活動が行われている。 ● 農家に嫁いで外とのつながりがなくて大変だったときにPJに出会い、メンバーの存在が励みになって、自分もやりたい方向で頑張ろうと思える場所である。 ● 地域にも学びの場はあるが、家族の中で誰が行くかとなったら、一番に選ばれるのは父や夫で女性には参加するチャンスがないことが多い。ターゲットを農業女子に特化した場所があることの意義は大きい。 ● 地域のセミナーに参加しても男性ばかりで、質問がしにくい。女性が学べる場所がある意義は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業ビギナーの人、先進的な人など、立場によってニーズはさまざま。その人のライフステージによってもできることが変わってくるので、多様な立場の人を後押しする活動であってほしい。 ● 農業に役立つ様々なセミナーを無料で受けられて、1人1人が次に踏み出すきっかけとなるような場であってほしい。 ● 学ぶことは一生続くので、PJの中に農業女子が学べる場がほしい。農業女子の進化につながるはず。 ● ビギナーにとって最も重要なのは、どうしたら農業として生計が成り立つかのノウハウ。先輩たちの栽培方法や売り方について知りたい。 ● 栽培や販売のノウハウについて、単発ではなく、シリーズ形式でセミナーを行い、段階的に深く学べるようにするとよい。PJでの学びによって経営が発展したという事例につながるとよい。

※農業女子PJ未来につなぐ会議における農業女子メンバーからのご意見等をもとに作成。

<目的 その3> 若い女性の職業の選択肢に「農業」を加える

これまでの成果	今後への期待
<ul style="list-style-type: none"> ● 高校・大学等と農業女子メンバーが連携し、次世代の女性農業者を育てる「チームはぐくみ」を2016年から開始。東京近郊だけでなく、地方でも参加が増え、現在は8校が参加。 ● 農業女子メンバーの母校の大学やはぐくみ校などで農業のリアルを伝える出前授業の取組が広がるとともに、農業体験の受入や食育を行う取組が広がった。 ● はぐくみの活動を通じて、新規就農者も誕生。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食、オーガニック、サステナブル、アウトドアなどの切り口から農業に関心を持つ若者や女性（農業女子の予備軍）は増えており、そういった層に対して、農業に触れる機会を設けてはどうか。 ● メンバーの多様な経験を活かし、就農フェア等での相談ブースやオンラインで、農業の実情（例：賃金、労働時間、補助金、就農する地域の特色など）について詳しく相談に乗る場を設けてはどうか。 ● 農業体験の受入れについては、効果的な話し方や伝え方など、受入れ側が勉強する場が必要ではないか。

※農業女子PJ未来につなぐ会議における農業女子メンバーからのご意見等をもとに作成。

<今後の農業女子プロジェクトのあり方について>

項目	今後への期待
プロジェクトの目的について	<ul style="list-style-type: none"> ● PJの3つの目的の達成度を検証してはどうか。それぞれの目的を達成するための手段として今後の方向性を考えられるとよい。 ● 農業女子PJの名称と目的に共感して入りたいと思ったので、これからも今の目的を大切にしてほしい。 ● 新しい活動やつながりを作りたいと思っている女性にとって、農業女子プロジェクトの名称や目的は心に響くもの。
セミナー等一部の企画に男性が参加することについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性という枠があるからこそ参加しやすい。女性が感じる不自由を解消するためのプロジェクトなのだから、わざわざ男性が入れるようにする意義はないと思う。 ● 講習会の案内が家族あてに来ると男性が行くことになり、女性が参加できなくなるのが現状。農業女子PJも、男性が参加できるようになると女性が出られなくなってしまう懸念があり、配慮してもらいたい。 ● 男性を講師として招くことには賛成。 ● これからの農業を前向きに考える者であれば男女関係ない。他団体にも新しい考え方で経営している人も多いので、場合によっては一緒に活動してはどうか。
「農業女子プロジェクト」の名称について	<ul style="list-style-type: none"> ● 名称はこのままの方がいいと思う。女性が年齢を重ねたら女子と名乗ってはいけないう風潮を打ち破るくらい、農業女子を掲げ続けて欲しい。 ● 次に名称についての画期的なアイデアが出てきたら検討してはどうか。 ● 農業女子PJに助けられた部分もあり、「農業女子PJ」との名称に愛着がある。名称が浸透していると感じているので、事あるごとにPRを続けてほしい。

3つの活動方針

1. 「NEXTラボ」のトライアル実施

- ・メンバーのニーズに合った学びやネットワークの構築の場となる「NEXTラボ」を創設
- ・テーマ毎に、“サポーター企業”や農業経験豊かな先輩女子メンバー等から、最新の技術や経験談等を学べる場として設置
- ・10周年となる11期（2023年11月）から本格実施することとし、10期（2022年11月～）はトライアル実施

2. 地域でつながる場の設定

- ・農政局と連携して、地域（県・ブロック）段階でメンバーが交流できる場を設定
- ・4Hクラブ、農業大学校、指導農業士等地域の他団体との交流も企画

3. 「農」の魅力の発信

- ・就農相談会における農業女子による相談対応や農業女子PJのPR
- ・食に関心のある都会の女性や高校生等への「農」の魅力の発信

事務局・地方農政局が連携して取組を推進

ラボ名：「農業技術の向上(初級編)」

- 事務局が主催し、年間カリキュラムを作成し、メンバーは自らの経営力向上に資する
と考えるカリキュラムに参加。
- 講師は、サポーター企業（カリキュラムの実施に協力いただける企業）や当該分野
の農業経験豊かな先輩メンバーに依頼。
- 同じテーマを課題とするメンバーがラボに集まることにより、農業女子同士のコミュニ
ケーションも図る。

内容例

項目	内容	サポート企業例
農業機械	機械操作、メンテナンス等	農業機械 メーカー
肥料	肥料の基礎（種類、効果等）、土づく り方法等	肥料会社
農薬・害虫	基礎知識、使用方法、害虫の判別等	農薬会社
加工・販売	農産物の加工取組事例、販売ノウハウ （売り方・見せ方、接客方法等）	小売業・EC サイト企業等

横断的 サポート

- ・農水省の担当課
による補助金等
の支援策紹介
- ・先輩メンバーに
よるサポート

b-2. 地域でつながる場の設定

○農業女子メンバーが増えたため、同一都道府県内でもメンバー同士を知らない・つながっていない。

○現状でも農政局等がメンバーを含めた女性農業者のつながる場を設定しているが、その取組を拡大・充実するとともに、他の地域団体（4Hクラブ、農業大学校、指導農業士等）との交流等の開催も検討。

開催イメージ（9期の取組実績から）

事例1：オンラインコミュニティの設置

北陸農政局では、北陸農業の未来のために地域を超えて出会い、つながれる場「たがやすラボ」を立ち上げ、農業女子プロジェクトメンバーだけでなく、地域の農業者をつなぐオンラインコミュニティ等を設置。[たがやすラボ | 北陸農政局地域交流プラットフォーム \(tagayasu-lab.jp\)](http://tagayasu-lab.jp)

事例2：地域グループの立ち上げ支援

九州農政局では、熊本県内の農業女子メンバーから地域グループの立ち上げについて相談を受け、「女子のチカラで作る農業のミライくまもと農業未来DAY(第1回県内女性農業者グループの立ち上げに係る協議)」を含め計3回の講義開催を県拠点が支援。農業女子プロジェクトメンバー以外の女性農業者への参加呼びかけのほか、他地域グループの概要やグループ立ち上げに活用できる事業の情報提供等により、地域グループの立ち上げを支援中。



ご自身にとっての農業女子プロジェクトの意義はどんなことですか。

- ✓ プロジェクトに入って、何か変わったことはありましたか。
- ✓ 良かったと感じたのはどんなことですか。



今後の農業女子プロジェクトにどんなことを期待しますか。

- ✓ 「NEXTラボ」など、新しい取組を検討しています。どんなテーマについて学びたいですか。
- ✓ そのほか、どのような活動を期待しますか。



農業女子プロジェクトの目的、名称、男性の参加についてどのように考えますか。

女性が変わる未来の農業推進事業

【令和5年度予算概算要求額 200（85）百万円】

<対策のポイント>

女性農業者の能力の発揮等による**農業の発展、地域経済の活性化**のため、**女性が働きやすい環境づくり、女性グループの活動推進、地域のリーダーとなり得る女性農業経営者の育成、女性農業者の活躍事例の普及等**の取組を支援します。

<事業目標>

- 農業委員に占める女性の割合向上 (30% [令和7年度まで])
- 農業協同組合役員に占める女性の割合向上 (15% [令和7年度まで])
- 土地改良区理事に占める女性の割合向上 (10% [令和7年度まで])
- 女性の認定農業者の割合向上 (5.5% [令和7年度まで])
- 家族経営協定の締結数増加 (70,000件 [令和7年度まで])

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 女性活躍に向けた全国事業

全国共通の研修コンテンツ（女性リーダーの育成、女性活躍の意義等）の作成や地域をリードする女性農業者の活躍事例の普及等の取組を支援します。

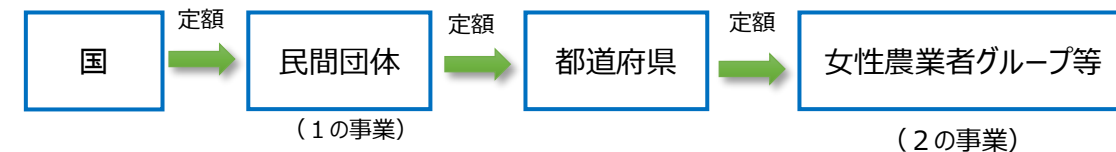
2. 地域における女性活躍推進事業

各都道府県において、地域の女性活躍の実情に応じて行う、女性農業者の育児と農作業のサポート活動支援、男女別トイレや更衣室の確保等の女性が働きやすい環境の整備、地域の女性農業者グループの活動推進、地域を牽引する女性リーダーの育成等の取組を支援します。

女性活躍に向けた Stage	農業・農村への呼び込み	農業・農村への定着	経営参画 経営発展	地域の方針策定への参画
全国事業	研修コンテンツの作成			
	地区事業で活用できる研修コンテンツ（女性リーダー育成、女性活躍の意義等）の作成			
	女性活躍の理解促進			
地区事業※	環境整備			
	女性が働きやすい環境の整備 女性農業者の育児と農作業のサポート活動、簡易な改修やリース等による男女別トイレ、更衣室等の確保、家族経営協定の締結に向けた相談会の開催等を支援			
	女性活躍の理解促進			
社会参画の推進	女性活躍の意義、女性活躍の事例等について研修会等を通じ周知		女性活躍の意義、女性活躍の事例等について研修会等を通じ周知	
	地域の女性農業者グループの活動推進 女性グループの事業活動や研修会の開催等を支援		リーダー育成 地域の実情に応じた女性リーダー育成研修の実施	

※ 地区事業については、実施する都道府県において**農業分野の女性登用の目標及び目標達成に向けた実行計画**を定めていること等を要件化

<事業の流れ>



[お問い合わせ先] 経営局就農・女性課 (03-3591-5831)